

<様式1>

3 板土み第220号
令和3年6月18日

(関東地方整備局長経由)
国土交通省 水管理・国土保全局長 殿

東京都板橋区長 坂本 健
(公印省略)

「かわまちづくり」計画の登録について（申請）

「かわまちづくり」支援制度実施要綱第7の規定に基づき、下記のかわまちづくり計画について申請いたします。

記

名 称 : 板橋区かわまちづくり
推 進 主 体 : 東京都板橋区

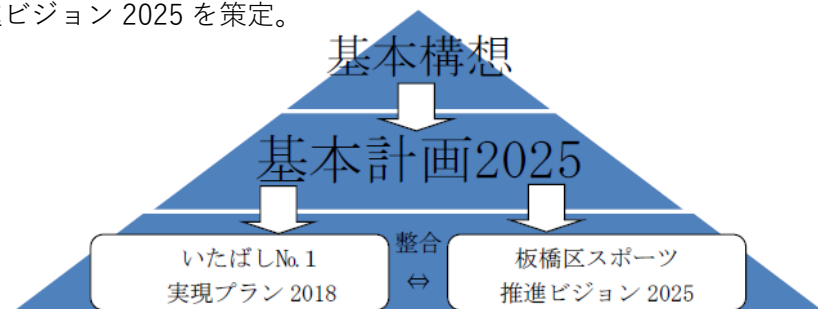
以上

市町村及び河川の概要

1. 区市町村等の概要	
①都道府県名	東京都
②区市町村名	板橋区
③人口	570,024 人（令和 3 年 4 月 1 日現在）
④面積	32.22 km ²
⑤区の特徴	板橋区は、東京 23 区のうち北西部に位置し、東西は北部で約 7.1 km、南部で約 4.5 km、南北は東部で約 6.7 km、西部で約 3.4 kmあり、南東から北西に長い地形となっている。平均海拔 30m前後の武蔵野台地と、荒川の沖積低地で形成されており、おおむね北部が低地、南部が高台となっている。高い地点は徳丸変電所付近（約 35 m）などで、低い所は新河岸川と荒川にはさまれた地点（約 2m）となっている。荒川に隣接した舟渡・新河岸地区は、荒川や新河岸川による都心への水運を活かし近代産業が発達してきた経緯があり、都内内陸部随一の工業専用地域を有している。2010 年には、概ね今後 10 年間の計画を定めた「荒川将来計画 2010 推進計画」に基づく板橋区地区（舟渡・新河岸ブロック）の地区別計画を策定し、現在、このゾーニングプランに基づいた保全・整備の取組みを進めている。
2. 市内の河川の概要	
① 主な河川（水系名、級、河川名、流域面積（全体、市町村内）、特色）	
・ 荒川（一級河川荒川水系（本流）、流域面積 2,940 km ² ）	
荒川は、奥秩父・甲武信ヶ岳（標高 2,475）を源流とする。幹川流路延長 173 km。	
・ 新河岸川（一級河川荒川水系、流域面積 411.0 km ² ）	
埼玉県川越市の西部を源流に、北区の岩淵水門付近で隅田川に合流する。延長 34.6 km。	
・ 石神井川（一級河川荒川水系、流域面積 73.1 km ² ）	
都立小金井公園付近を源流に、小平市、西東京市、練馬区、板橋区、北区を流れ、北区掘船で墨田川に合流する。延長 25.2 km。	
・ 白子川（一級河川荒川水系、流域面積 25.0 km ² ）	
練馬区東大泉を源流に、練馬区、都県境を流下し、板橋区三園で新河岸川に合流する。延長 10 km。	
②河川と市町村や民間事業者との関わり	
・ 荒川は、板橋区内では新河岸・舟渡地区を流れ、埼玉県との都県境となっている。都市化した板橋区内にあって残された貴重な空間として、豊かな自然を守り育てる場としての活用やスポーツ・レクリエーションを楽しめる場としての活用のほか、震災時の避難所にも指定されているなど、多面的な利活用が図られている。	
③これまで実施済みの関連施策（河川名、箇所、実施年度、特色）	
・ リサイクルプラザ（一級河川荒川水系、舟渡四丁目 16 番、平成 18 年 1 月開設）	
高規格堤防事業との共同事業により整備。区内で回収されたびん・缶を資源化する機能に加え、環境に関する講座の実施や自然観察の場の提供など、区民の学びや憩いの場としても活用されている。	
④市民や民間事業者による河川利活用状況	
・ スポーツ、レクリエーション、憩いの場としての利用	
・ 学習の場としての利用	
・ 災害時の避難場所	
・ イベントなどを通じた区民相互や他の市民との交流	

◎板橋区スポーツ推進ビジョン 2025

東京 2020 大会の気運醸成に向けた取り組みを図り、大会の成功はもとより、スポーツによる健康で元気なまちづくりを目指し、スポーツの基本的な推進施策の方向性を示すため、板橋区スポーツ推進ビジョン 2025 を策定。



○基本理念

ビジョンにおける基本理念は、区民のためのスポーツ施策の根幹をなす考え方です。スポーツ基本法では、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と規定されています。また、板橋区基本構想の「心躍るスポーツ・文化」ビジョンにおける、概ね 10 年後の「あるべき姿」では、「スポーツを世界共通の文化」として位置付けていることから、ビジョンでは、以下の 2 点を基本理念とします。

(1) スポーツの文化的価値の浸透

スポーツは「身体を育てる」、「競い合って成長する」という側面に加え、「人を育てる」という広い価値のある文化的活動であることを多くの区民に発信することで、その価値が浸透していくことを目指します。

(2) 最良のレガシーの創出

東京 2020 大会の開催を契機に、「スポーツを通じて心と身体を鍛え、世界の国々の人々と交流し、平和な社会を築くこと」を目的としたオリンピック・パラリンピック精神が広く区民に根付くことで、最良のレガシー（後世に引き継ぐべき区民共通の財産）を創出していくことを目指します。

○基本目標

(1) 区民の誰もが親しめるスポーツ環境の整備

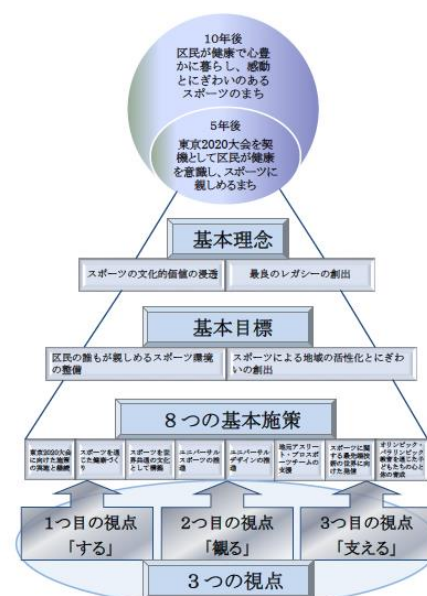
区民の誰もが、健康で「いつでも」「いつまでも」スポーツに親しむことができる環境を整備します。

(2) スポーツによる地域の活性化とにぎわいの創出

スポーツの持つ力によって、地域を活性化し、地元への愛着とにぎわいを創出するとともに、区民の健康づくりを推進します。

○3つの視点「する」、「観る」、「支える」

区民の誰もがスポーツに親しみ、気軽に参加できる環境を整えることや、アスリートとのふれあいなどから地域の活性化、一体感を創出します。またスポーツ施設を効果的・効率的に活用しアスリート支援等を行います。



◎いたばしグリーンプラン 2025（平成 30 年 3 月策定）

都市緑地法に規定される「市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」であり、緑地（農地を含む）の保全や緑化の推進に関する目標、方針、施策や、都市公園の整備、管理の方針などを定めている。

施策展開テーマⅡ “みどり”を次世代につなぐ

4 うるおいのある水辺と湧水の保全

様々なスポーツ・レクリエーションの場として利用されている一方、崖線沿いの樹林地と並ぶ区の貴重な自然資産として緑と水の主要な軸線となっている荒川河川敷の利用と保全の両立を図る。



◎荒川将来像計画 2010 地区別計画[板橋区]（平成 24 年 9 月策定）

板橋区地区の荒川河川敷の望ましい姿を実現するための基本方針や土地利用計画、ブロック別の具体的な取組みの内容を示した。



○川づくりの基本方針

コンセプト：自然と人が融合する交流拠点「光と風の荒川」

遮るものが無い広大な大地で、燦燦（さんさん）とふりそそぐ日の光を浴び、荒川からの風を受け、多くの人が思い思いに散策に、スポーツに、自然観察にと楽しめる、自然と人が融合した空間をつくっていきます。



荒川板橋区地区 現地写真（空撮）

◎高台まちづくり「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」

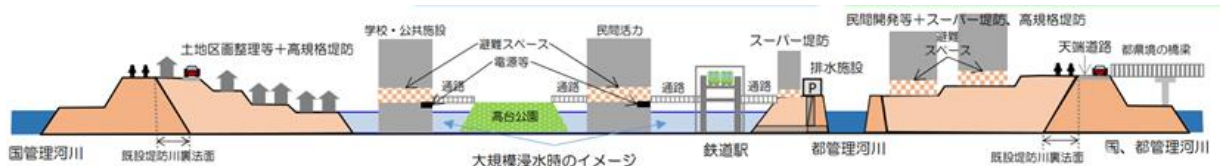
○ 東京を流れる河川においては、古くから堤防や洪水調節池等の治水施設の整備を進めてきているものの、ゼロメートル地帯を貫流する荒川において、河川整備の最終目標である年超過確率 1/200 の洪水に対し、概ね 30 年の整備の目標が年超過確率概ね 1/100 であるカスリーン台風と同規模の洪水が発生しても災害の発生を防止を図ることとしている。またゼロメートル地帯等を守る高規格堤防については、全ての形状を含む整備済み延長は荒川で 6.2km (12%)、江戸川で 1.9km (8.4%)、また、そのうち高規格堤防の基本的な断面形状が確保された区間延長は荒川で 0.7km (1.4%)、江戸川で 0.6km (2.9%) の整備にとどまるなど、治水施設の整備は未だ途上である。

○ また、整備完了後であっても施設の能力を上回る洪水等が発生するおそれがあり、さらに気候変動により、産業革命以前と比べて世界の平均地上気温を 2℃に抑えるシナリオでも、洪水の流量は約 1.2 倍、発生頻度は約 2 倍と試算されている。

○ 施設の能力を上回る洪水が発生し、堤防が決壊すると、荒川、江戸川等の洪水浸水想定区域内に約 315 万人の都民が暮らし、民間企業等も多く位置するゼロメートル地帯等では、広範囲が浸水し、また 2 週間以上浸水が継続することとなるが、域内の避難場所等は不足し、また建物等の浸水しない上階に垂直避難したとしてもライフラインの長期停止により生活環境の維持が困難な状況に陥る。また、様々な企業等が浸水し、経済活動が停滞することとなる。

○ 江東 5 区においては広域避難の取組を開始したところであるが、令和元年東日本台風を受け、広域避難の実施について、公共交通機関の早期計画運休の定着による移動手段の確保の問題や、広域での被災が予測される場合の避難先を示すことの難しさなど、多くの課題が明らかになったところである。

○ このような事態に備え、超過洪水対策としての高規格堤防を整備し、また、大規模水害時の広域避難の検討などを進めているものの、大規模氾濫に対して安全なまちづくりの全体像や対策は明確になっていない。



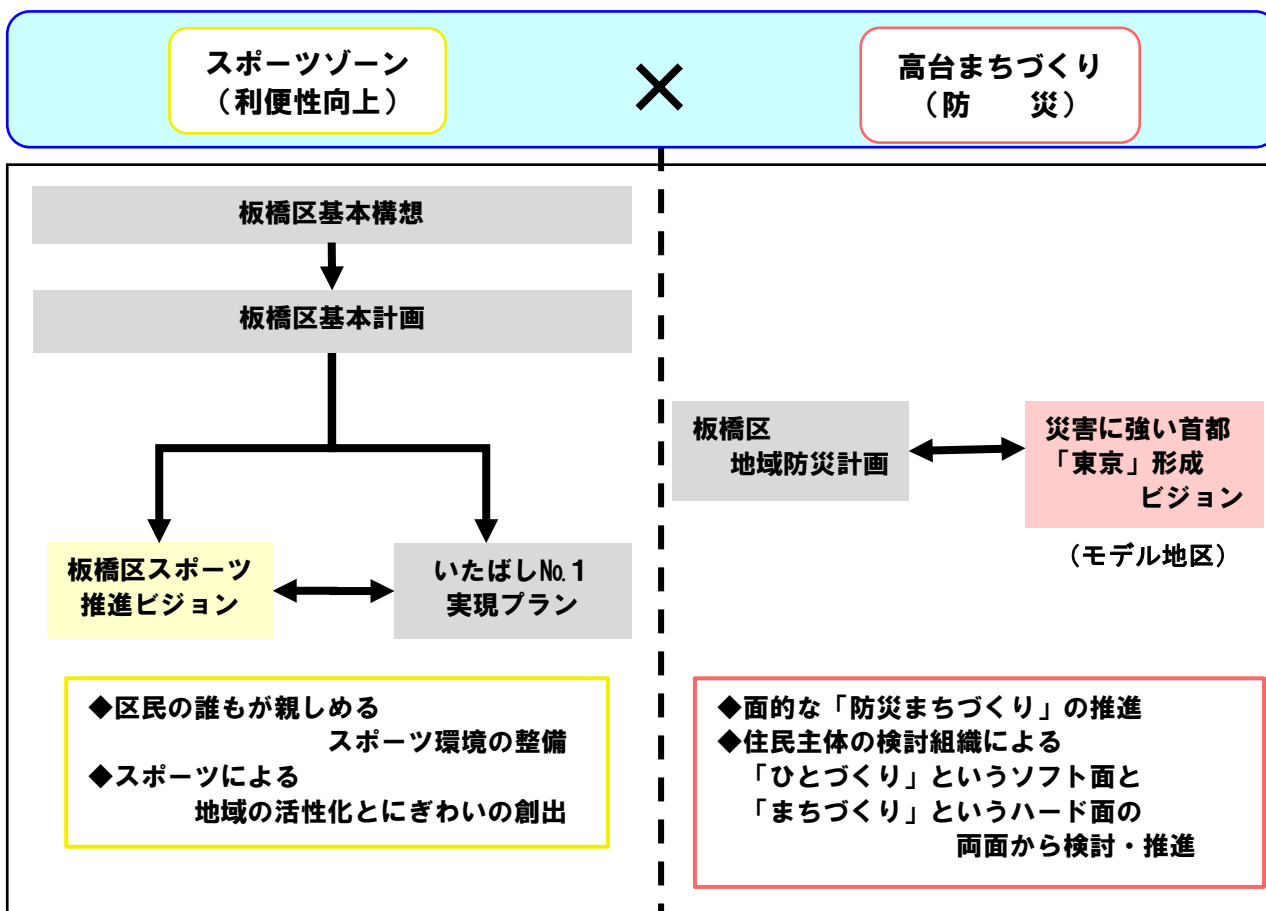
◇モデル地区における検討の方向性

首都「東京」において大規模洪水や首都直下地震等による壊滅的な被害の発生を回避するための防災まちづくりについて検討することを目的に令和 2 年 1 月、連絡会議を設置。連絡会議を 4 回開催し、特別区区長、国民、企業から意見を募集し、同年 12 月に『災害に強い首都「東京」形成ビジョン』をとりまとめた。板橋区においては水害リスクが高い、「舟渡・新河岸地区」がモデル地区として設定された。コミュニティタイムラインと連動した避難方策の検討や、まちづくりの可能性を踏まえた避難場所の確保策に関する検討を行っている。

【避難行動に係る板橋区の考え方（案）】

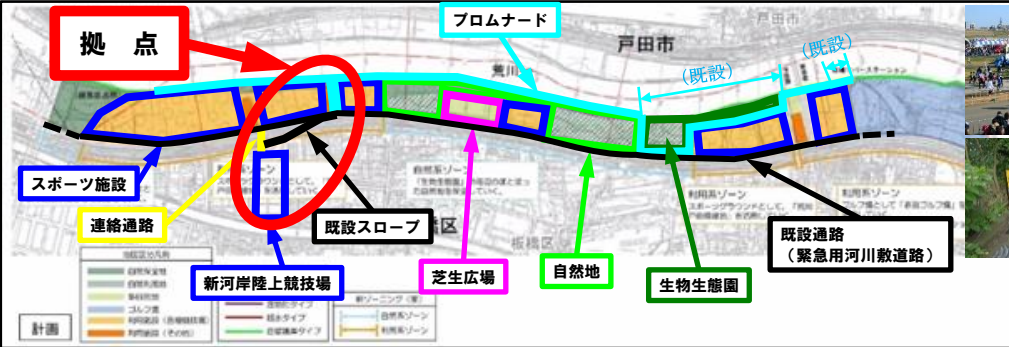
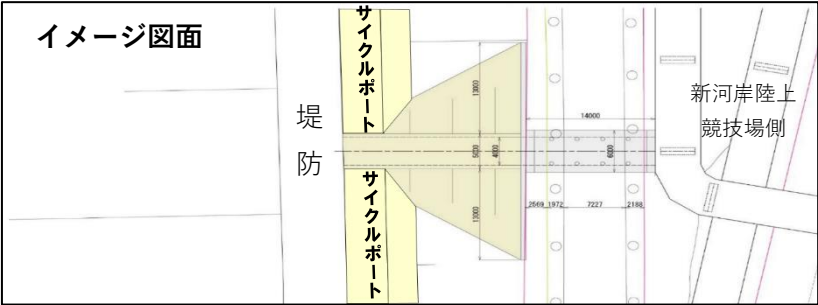


以上の上位計画を踏まえ、本計画においては、スポーツゾーン（利便性向上）と高台まちづくり（防災）の融合により、誰でも安心、衛生的、快適に利用できる河川レクリエーション空間へ変容させることで利用者を増加させ、賑わい創出を図る。



河川の利活用状況写真

ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
荒川水系荒川
2. 施策の実施範囲
荒川 板橋区 舟渡・新河岸地区
3. 施策概要
①拠点整備 かわまちづくりの拠点として、新河岸陸上競技場と河川敷を連絡通路（階段含む）で結び、水際までをプロムナードでつなぐ。プロムナードにはリバーステーションと動線をつなぐ親水護岸をもうける。また中心にある駐車場の再整備を行う。 ➡移動販売やシェアサイクルを導入し人流を加速、促進することで賑わいを創出の可能性を検討する。   賑わい創出イメージ ②サイクルポート事業 ○サイクルポート 現在、区内河川敷にあるサイクルポートでは、板橋区立リサイクルプラザに拠点があるのみ。河川区域と都市部との往来を増やすため、サイクルポートを整備する。利便性を向上させるとともに、河川へよりアクセスしやすくすることで、親水へのきっかけづくりを加速させる。 ※板橋区内に既設のサイクルポートは 169 箇所（令和 3 年 7 月 12 日時点） イメージ図面   （板橋区内の別箇所の写真） サイクルポートのイメージ写真

③案内サイン整備事業

○案内サイン

板橋区では、板橋の魅力を高める屋外広告物とその表現に関し、平成 28 年 3 月に「板橋区屋外広告物景観ガイドライン」を策定、また、平成 31 年 3 月には、統一感のある屋外案内標識の整備や維持管理を行うための基本ルールやデザインルールを定めるため、「板橋区屋外案内標識デザインガイドライン」を策定した。このことにより、板橋に暮らす人や訪れる人をもてなし、安心してまち歩きを楽しむことができる。

このような各種ガイドラインを参考にわかりやすく、親しみやすい、魅力的な公共サインを整備する。



案内サインのイメージ写真

④効果的な情報発信

○情報発信機能等の充実

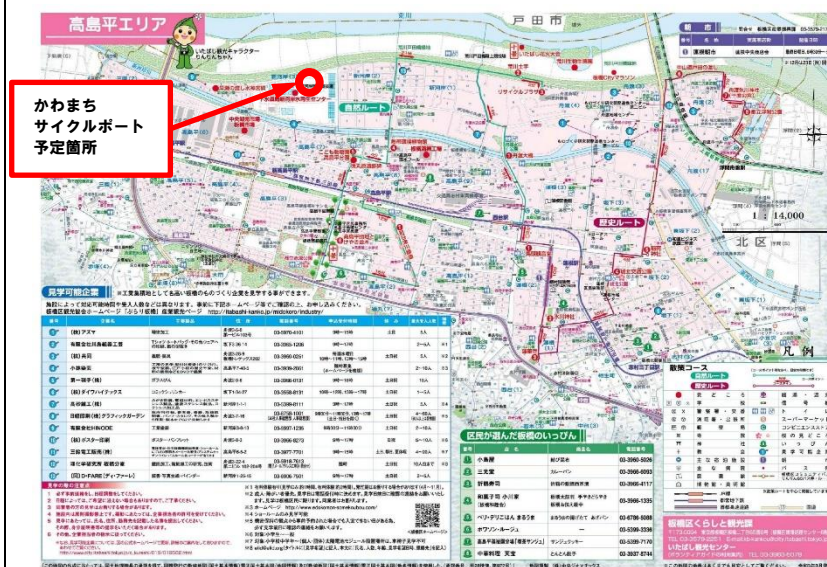
ホームページ、YouTube や Twitter など SNS を活用した国内外への情報発信の充実を図る。

○既存の板橋区エリアマップ、荒川下流パンフレットを活かした情報発信

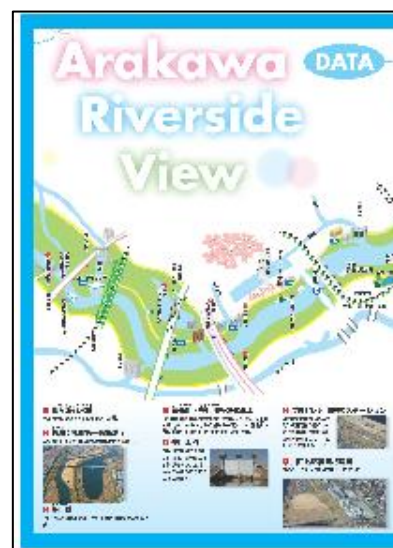
板橋区が作成している観光エリアマップや荒川下流河川事務所が作成しているパンフレットに情報を追加し、更なる情報発信を図る。

○新規サイクルポートの情報発信

新規サイクルポートについて情報発信を推進し、既存のサイクルポートと合わせて情報発信することで、河川区域と都市部との往来を増やし、利便性を向上させるとともに、水へのきっかけづくりを加速させる。



板橋区エリアマップ



荒川下流パンフレット

(参考) 環境学習等

荒川河川敷ウォーキング周遊マップ事業

○スタンプラリー

新河岸陸上競技場を探索拠点とし、荒川河川敷の自然や生き物、風景を楽しみながら河川敷をめぐるスタンプラリーを実施する。

○自然観察会

荒川河川敷で昆虫を中心に草原や水辺のいきものを探して観察。荒川の大自然を肌で感じながら、自然環境について学ぶ。新河岸陸上競技場を拠点（座学など）として実施。

○周遊マップの作成

・探索拠点

陸上競技場施設を活用し、休憩はもとより、週末は移動販売などによる軽食の販売や「舟渡ラーメン」・「板橋のいっぴん」の販売など。

・昆虫探索ゾーン

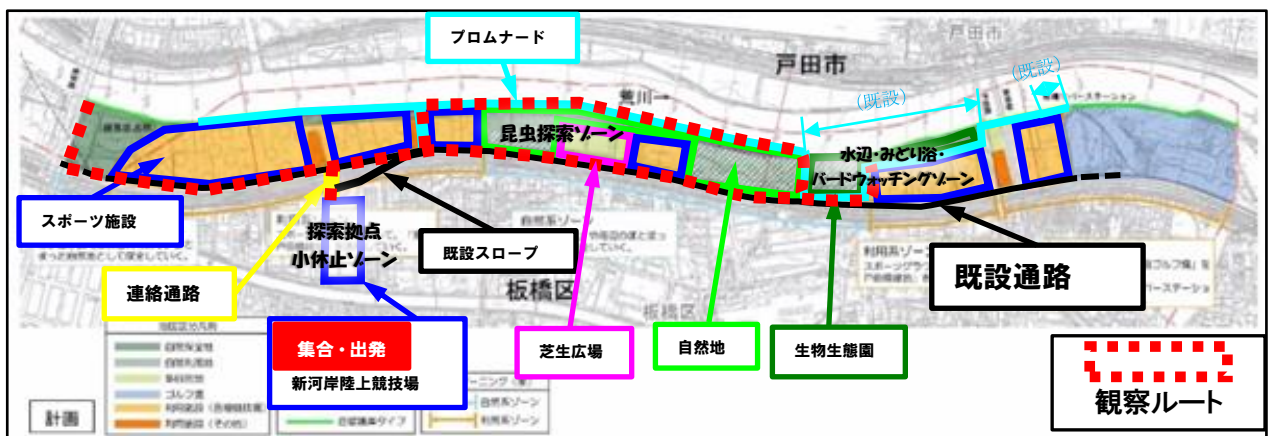
バッタ、トンボ、カナヘビなど、河川敷に生息する生き物を探索
(写真を撮って、展示などのイベントも開催)。

・水辺・みどり浴・バードウォッチングゾーン

まとまった中高木や水辺ではメダカ、カニ、ザリガニ、アメンボなど、中洲では、羽を休めに来る大型のシラサギや鳥たちを観察。

・全ゾーン

野球、サッカー、陸上、テニスなどの各競技のベストショットを撮影し写真展を開催



支援整備内容の概要（ハード施策）

1. 河川名	荒川水系荒川
2. 整備範囲	荒川 板橋区 舟渡・新河岸地区
3. 整備内容	○連絡通路整備、駐車場整備、プロムナード整備、親水護岸整備 ・かわまちづくりの拠点として、新河岸陸上競技場と河川敷を連絡通路（階段含む）で結び、水際までプロムナードでつなぐ。 ・プロムナードにはリバーステーションと動線をつなぐ親水護岸をもうける。 また中心にある駐車場の再整備を行う。
(参考) 位置図	 The figure consists of two maps. The top map shows the outline of Tokyo with the location of the project area highlighted in green and labeled '板橋区' (Hachikō City). The bottom map is a detailed street map of the project area, showing the Arakawa River and the planned promenade and river station. The map is divided into four quadrants labeled A, B, C, and D. A red line indicates the planned promenade and river station. A legend in the bottom left corner identifies symbols for the river, promenade, and river station. A scale bar and north arrow are also present.

ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名

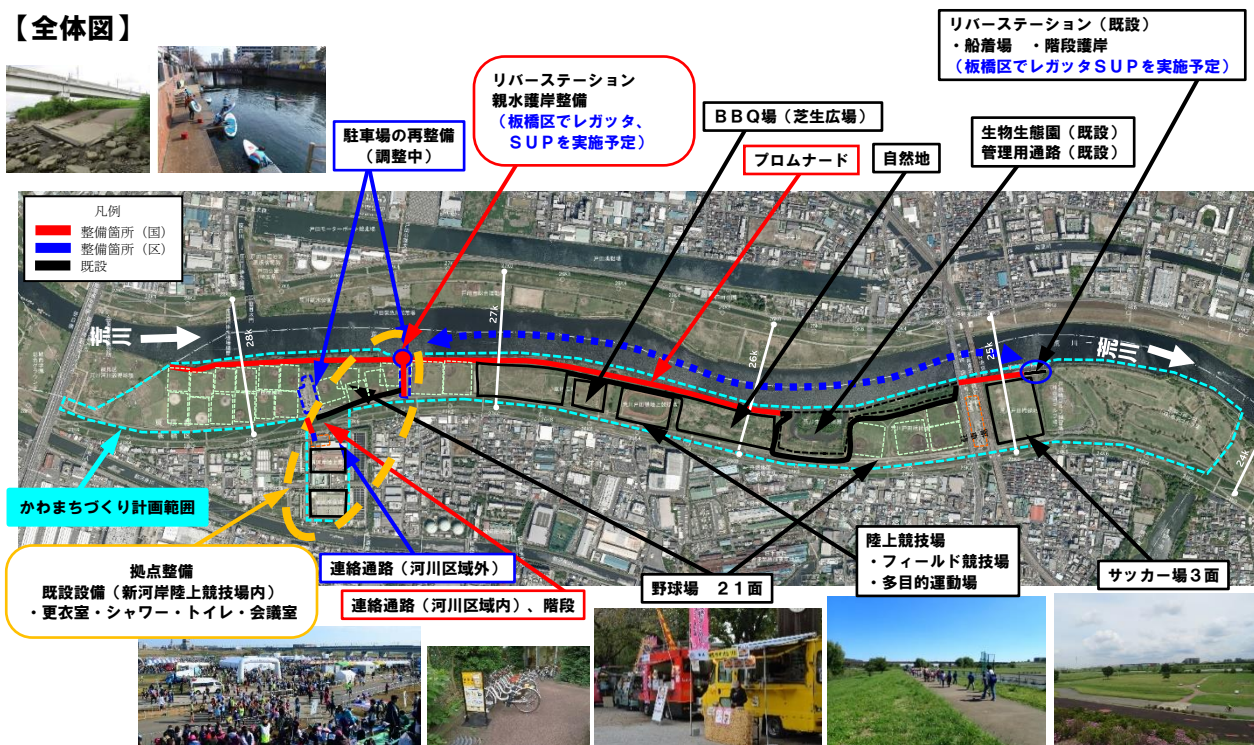
連絡通路整備、プロムナード整備、親水護岸整備

2. 整備概要

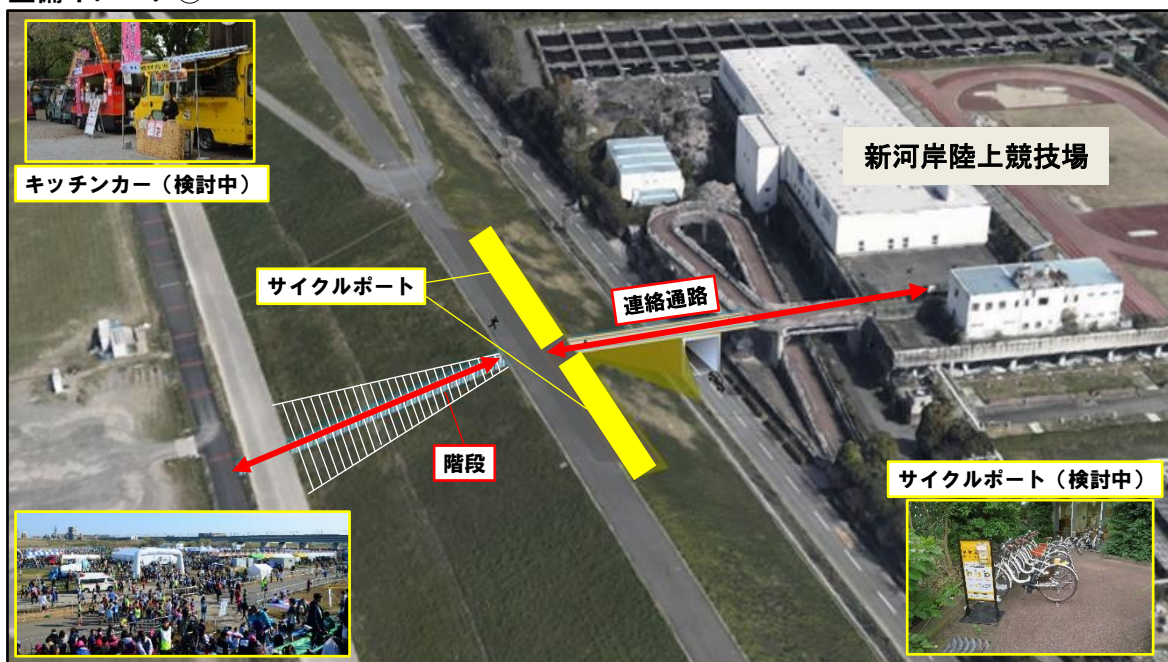
【全体整備概要】

整備イメージ①

【全体図】

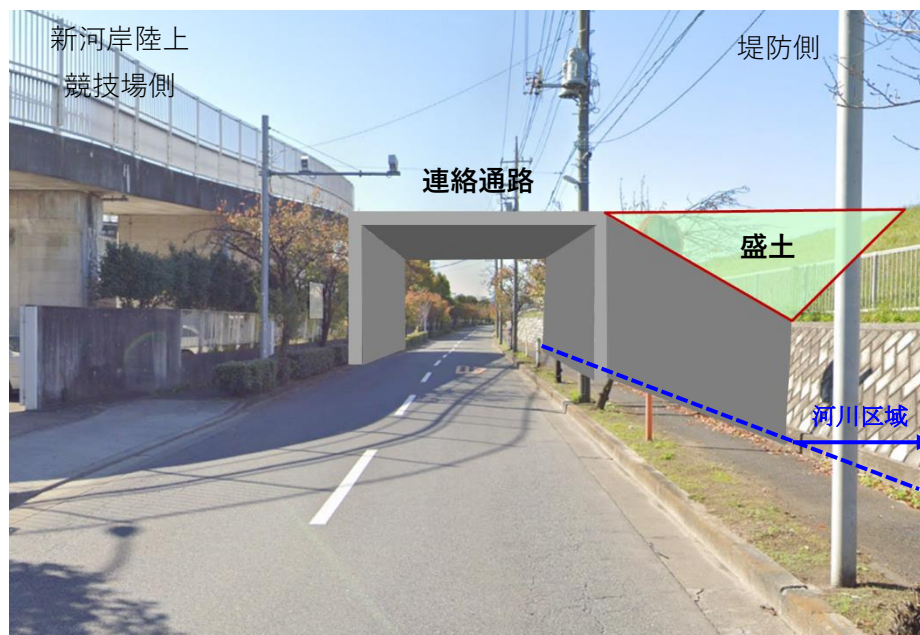


整備イメージ②

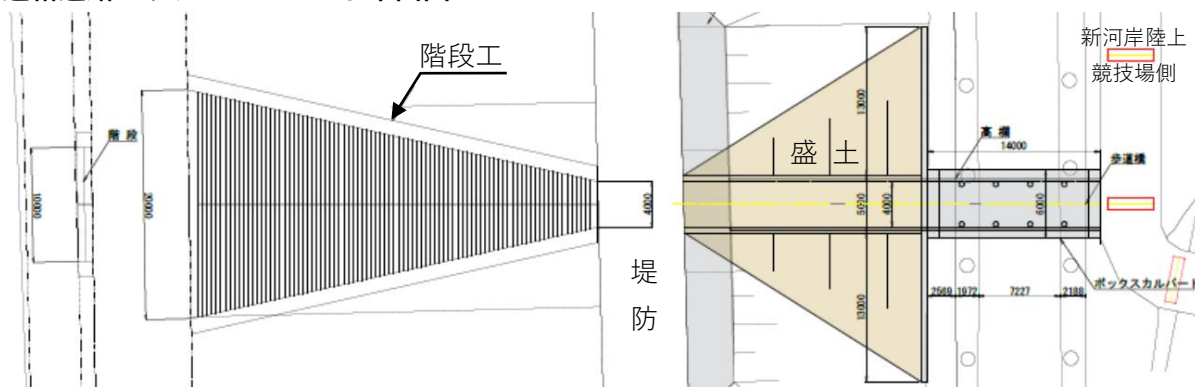


【連絡通路整備概要】

①連絡通路整備イメージ

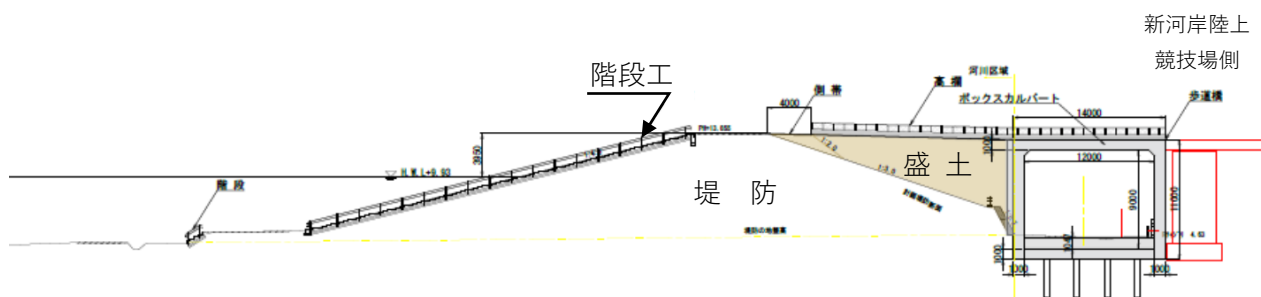


②連絡通路ボックスカルバート平面図



※側帯の必要幅・距離等詳細については検討中

③連絡通路ボックスカルバート断面図

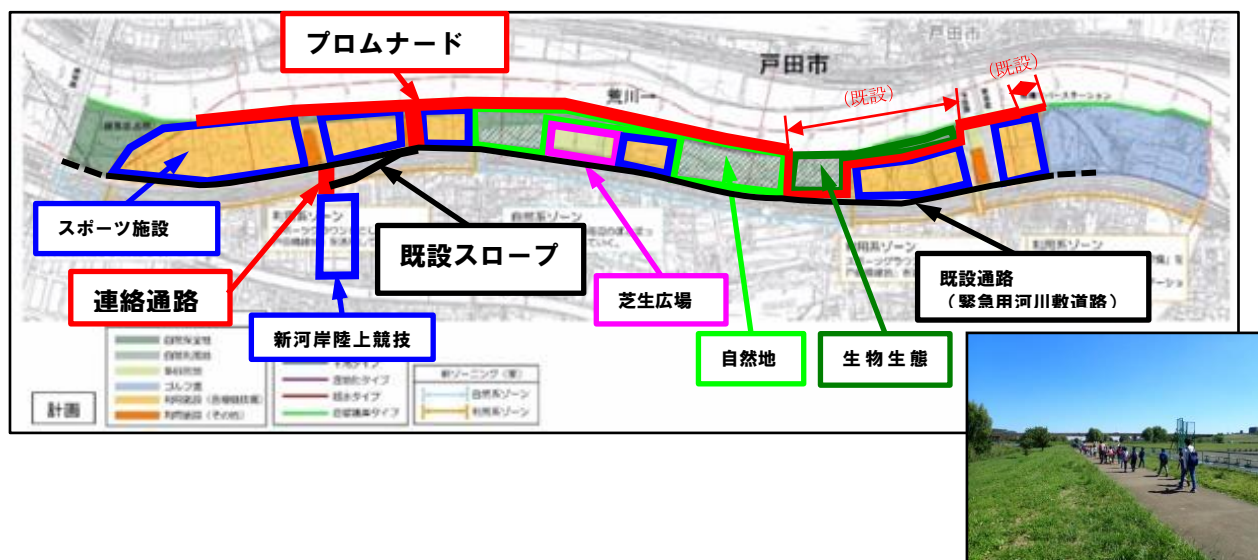


【プロムナード整備概要】

○プロムナード整備のイメージ

スポーツゾーンの目玉の一つとして、自然豊かな空間でウォーキングを楽しみながら健康増進を図る、プロムナードを整備します。既設の通路においてはサイクリストの往来等が多いため、安心してウォーキングができる場所を提供。

また、プロムナードが各施設をつなぎ、利便性の向上にも寄与できる。



プロムナード整備のイメージ写真

【親水護岸整備概要】

○親水護岸整備のイメージ

スポーツゾーンの目玉の一つとして、水辺でSUP等を楽しみながら健康増進を図る、親水護岸を整備します。最下流部には既存のリバーステーションがあり、駐車場も近いため、利便性が高い場を提供できる。



親水護岸整備のイメージ写真
(満潮時の水位を図示)

SUP 事例

【案内サイン整備概要】

○案内サイン整備のイメージ

板橋区では、板橋の魅力高める屋外広告物とその表現に関し、平成 28 年 3 月に「板橋区屋外広告物景観ガイドライン」を策定、また、平成 31 年 3 月には、統一感のある屋外案内標識の整備や維持管理を行うための基本ルールやデザインルールを定めるため、「板橋区屋外案内標識デザインガイドライン」を策定した。このことにより、板橋に暮らす人や訪れる人をもてなし、安心してまち歩きを楽しむことができる。

このような各種ガイドラインを参考にわかりやすく、親しみやすい、魅力的な公共サインを整備する。



案内サイン整備のイメージ写真

3. 整備の必要性、有効性

○スポーツゾーン（利便性向上）

【現状と課題】

荒川河川敷のスポーツゾーンは利活用ニーズが極めて高いものの、更衣室が無いことやトイレが使いにくい、河川区域内へのアクセスが良くないことなど、特に女性や障がい者等の利用促進の大きな障害になっている。また、スポーツゾーン利用者の駐車場が不足している。河川敷自然環境の面では親水空間整備が発展途上であることも一つの課題である。

【個別方針】

河川敷に整備できない機能を隣接する堤内の運動公園施設に代替させるため、連絡通路を整備するとともに、連絡通路と周辺の堤防を広場として整備することや、健康増進の場としてのプロムナードを整備する。

【効果】

- ・誰でも安心、衛生的、快適に利用できる河川レクリエーション空間へ変容
- ・健康増進の場を提供
- ・河川敷の駐車場と堤内側の駐車場が相互利用可能
- ・利用者を増加させ、賑わいの創出

○高台まちづくり（防災）

【現状と課題】

令和元年東日本台風を受け、避難の実施について、以下の課題が明らかになった。

- ・早い段階からの避難ができなかった場合でも、命の安全・最低限の避難生活水準の確保が必要。
- ・浸水深や浸水継続が長いなど、地域ごとに水害リスクの性質が異なる。

【個別方針】「水防災ひと・まちづくり」

地域ごとの水害リスクや避難のあり方、排水対策等を踏まえた高台まちづくりのあり方について、モデル地区（災害に強い首都「東京」形成ビジョン）を設定し具体策を検討する。

- ・コミュニティタイムラインと連動した避難方策
- ・まちづくりの可能性を踏まえた避難場所の確保策

【効果】

- ・一時避難所及び避難経路の確保

【共通方針】

「かわまちづくり計画」 ・ 「かわ」と「まち」をつなぐ通路の確保（連絡通路）

○目標

荒川河川敷スポーツ施設の利用者数

平成 28 年～令和 2 年度実績平均 182,000 人

令和 7 年度目標（2025） 214,000 人 増 32,000 人

連絡通路の想定年間利用者数

・ 休憩利用 33,558 人

・ サイクルポート利用 1,000 人

計 34,558 人

■ かわまちの整備によって、約 6.7 万人増が想定される。

4. 整備の実現方策

【整備工程】

整備内容	R 4	R 5	R 6
サイクルポート事業 （板橋区）	検討調整 ←→		※ R 7 から実施予定
案内サイン整備事業 （板橋区）	設計 ←→	整備 ←→	←→
連絡通路整備（河川区域外） （板橋区）	設計 ←→	整備 ←→	←→
連絡通路整備（河川区域内） 階段整備（国土交通省）	設計 ←→	整備 ←→	←→
プロムナード整備 （国土交通省）	設計 ←→	整備 ←→	←→
親水護岸整備 （国土交通省）	設計 ←→	整備 ←→	←→

※既設整備：野球場、陸上競技場、フィールド競技場、多目的運動場、サッカー場、
リバーステーション（下流側）、BBQ 場（芝生広場）、生物生態園

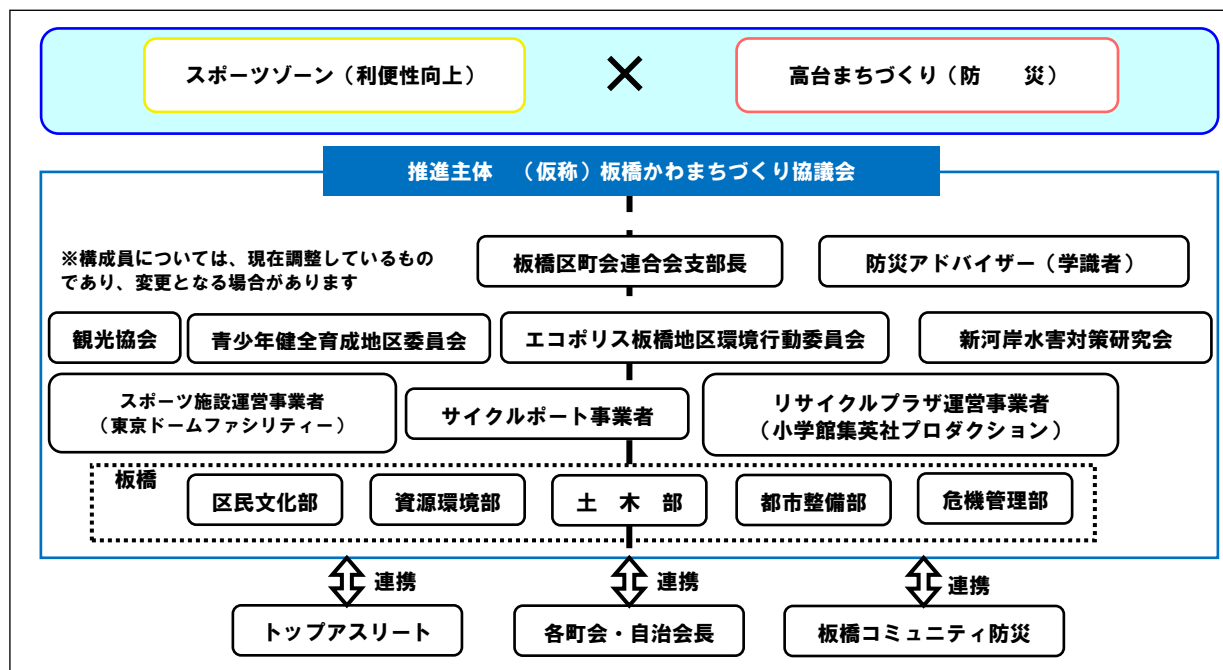
5. 推進体制

「(仮称)板橋区かわまちづくり協議会」を今後設立し、同協議会を主体として整備の内容、利活用及び維持管理を含めた検討を進めていく予定である。

協議会設立目標：9月から10月予定

市内PTを組み、推進主体（協議会）（案）として活動していく。

なお、単純に区内部PTだけでなく、外部から有識者、地元関係者を推進主体に取り入れ、かつ外部組織と連携していく。



6. 有効利用および維持管理

【施設の有効利用に関する計画】

○スポーツゾーン（利便性向上）

- ・河川敷に整備できない機能を隣接する堤内の運動公園施設に代替させるため、連絡通路を整備するとともに、連絡通路と周辺の堤防を広場として整備することや、利用施設をつなぐプロムナードを整備するなどし、誰でも安心、衛生的、快適に利用できる河川レクリエーション空間へ変容させることで利用者を増加させ、賑わい創出する。

また、市街地側と河川側を結ぶことにより、親水及び交流拠点が一体的に形成された、交流の機会や場を創出する。

○高台まちづくり（防災）

- ・「水防災ひと・まちづくり」地域ごとの水害リスクや避難のあり方、排水対策等を踏まえた高台まちづくりのあり方について、モデル地区（災害に強い首都「東京」形成ビジョン）を設定し具体策を検討している。

また、河川敷におけるウォーキング等利用者と運動施設利用者の双方から連続性を望む声が多く上がっている。

- ・連絡通路が整備される事で、新河岸陸上競技場を水害時の緊急垂直避難場所とした際の脱出経路を確保する事ができ、水害時緊急避難の実行性を高める事ができる。

【維持管理計画（基本方針、地域の関係者と河川管理者との役割分担）】

施設の維持管理については、以下の役割分担で行う。

親水護岸：国土交通省（表面管理：板橋区）

その他：板橋区（連絡通路、プロムナード、案内サイン）

日常的な施設管理、清掃等については「（仮称）板橋区かわまちづくり協議会」と連携して行う予定。

7. 特徴

新河岸陸上競技場

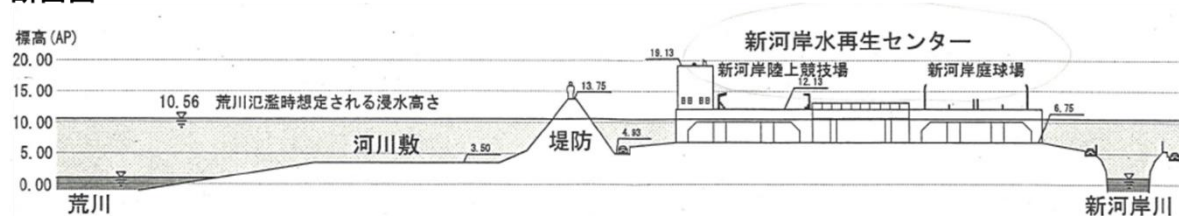


陸上競技場内部



観客席：500人～600人 ベンチ：3人掛け8脚 自動販売機：2台
※新河岸庭球場 ベンチ：3人掛け3脚、5人掛け17脚 自動販売機：4台

断面図



・状況写真



現地写真（空撮）



新河岸水再生センター
（新河岸陸上競技場・新河岸庭球場）

<様式6>

その他特筆すべき事項

◎市街地側

○新河岸陸上競技場（開設：昭和 59 年 9 月）

所 在 地 東京都板橋区新河岸三丁目 1 番 3 号

施設概要 全天候型第 4 種公認陸上競技場（2 5 0 mトラック 7 コース）

フィールド競技場（走幅跳び、三段跳び、走高跳び、砲丸投げ）観客席

管理棟（更衣室 シャワー室 トイレ 会議室 管理人室等）



○新河岸庭球場（開設：昭和 58 年 4 月）

所 在 地 東京都板橋区新河岸三丁目 1 番 3 号

施設概要 オムニコート・1 0 面（硬式軟式兼用）

管理棟（更衣室 シャワー室 トイレ 談話室 管理人室等）



◎河川側

○荒川戸田橋緑地 生物生態園（開設：平成 30 年 4 月）

所 在 地 板橋区舟渡四丁目 14 番地先

施設概要



現地写真（全景）



観察広場

○荒川戸田橋陸上競技場（開設：平成 11 年 8 月）

所 在 地 板橋区舟渡 4 丁目 7 番先

施設概要 陸上競技場（400mトラック 8コース） フィールド競技場（走り幅跳び、三段跳び、多目的運動場（サッカー、フットサル等）



○板橋区立荒川戸田橋野球場（開設：昭和 51 年 4 月）

所 在 地 一般・少年 板橋区新河岸一丁目 25 番先

軟式兼用 板橋区舟渡 3 丁目 20 番先

施設概要 野球場（一般：11 面、少年：6 面、軟式兼用：2 面）



○荒川戸田橋緑地（開設：昭和 50 年 4 月）

所 在 地 板橋区新河岸一丁目 14 番地先

施設概要 野草系広場ゾーン（河川敷に自生する植物を部分的に残した広場）

芝生系広場ゾーン（約 29000 平方メートルの広大な芝生広場、バーベキュー定員 200 名）

水路ふれあいゾーン（四季折々の草花や生き物と触れ合える広場）

